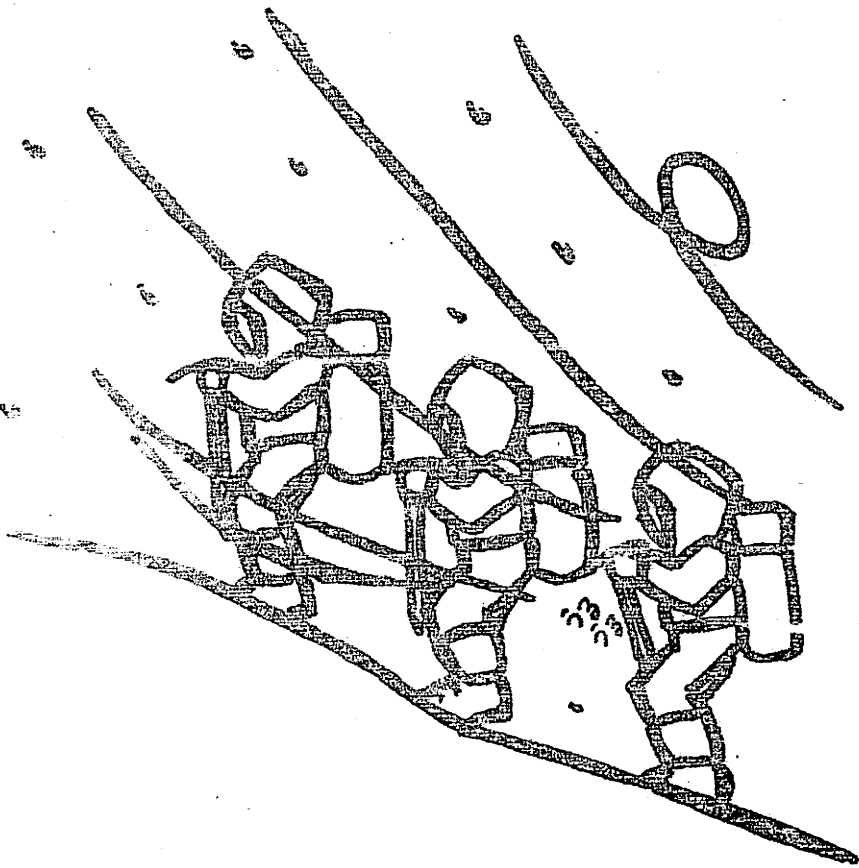


新人合宿の
'88 報告書



信州大学山岳会

みんな いよいよごくらうをまですた。事故もなく合宿を終え
何よりである。残念ながら 奥穂ヶ槍へ行けなかつた
が オレを恨まなくてくれ。天気が悪い。一年生は、やる
事、覚える事 いよいよあり最初は大いへんだったと思うが
後半は大いふ覚えてくれたようである。今度の縦走合宿
で確実に身につけてほしい。又山では 体力が第一
であるから トレーニングも忘れずに。二年生は 全体を見
ると まあまあよくできていたが、1人1人見ると 穴がある
ようだ。自分で分っていると思うので 十分な努力
を、するように。3、4年生 ごくらうをまですた。

瑞太郎

1. 記録

2. 係の反省

3. 個人の反省

4. コブ尾根の整

5. 作文

5/29 部室 ——— 砂防ダム — 徳本峠 — T.S

Aパーティ — リーダー 豊田, 下平, 服部, 牧野, 福桓, 松本, 山田, 河西

- ◎/① 6:10 砂防ダム
- ① 6:40 二俣トンネル
- ① 7:35 一の沢出合、西
- ① 8:30 出シノ沢、ワサビ沢中間点
- ① 9:23 中元沢出合、西
- ◎ 10:10 小南沢 西 水補給
- ◎ 11:00 1650米 麓 ピンケル、單手用意、この後丸刈
- ① 11:50 1880米の水場 カ、ハ脱
- 13:10 徳本峠 14:00 麓 カミトリがマニエ
- ◎ 15:05 白沢雪渓途中
- = 15:40 T.S

感想 徳本峠から穂高が見えず残念!! 記入 河西

Bパーティ

上 飛田, 内田, 小林, 浦山, 兼岩, 遠藤, 原, 小野

- ◎/① 6:10 砂防ダム
- ① 6:45 二俣
- ① 7:42 一の沢と瀬戸沢の中間点
- ① 9:30 岩魚留小屋]この間、小雨
- ◎ 10:20 小南沢出合い
- ◎ 12:00 1650m 米と漕、たどろ
- 13:35 徳本峠
- ◎ 15:05 白沢雪渓途中
- = 15:40 T.S

感想 最後の登りは、本当にしんどかった。 記入 兼岩

C1071- 11-7- 中村(ア) 下田, 中村(イ), 松下, 小久保
長谷川, 加藤, 武

- ① 6:10 砥所クム
- ② 6:40 二俣
- ③ 9:15 岩魚留小屋
- ④ 13:05 徳本峠
- ⑤ 15:40 T.S

感想 自己の体力の底を再確認.

記入 長谷川

5/24 登攀隊

L 中村(イ), 下平

翌日登攀のため白沢出合のT.Sから横尾へ

17:30 ④ 白沢出合T.S

19:10 ④ 横尾避難小屋で6707

天気は悪ハシ腹が空いて同外まわるL. 最悪でした。

5/30 東嶺 Yメンバーは上に同じ

4:45 ④ B.S

横尾の岩小屋へ荷物をテボロす

6:20 ④ T4尾根の基部

50m 1C34登る

7:30 ④ T2

7:45 開始

3C34登る

10:48 ④ 中止してハル垂

40.50m 2P

11:35 ④ T2

T4尾根 3Pハル垂 (20.15.45m)

13:45 ④ BC

東嶺3C34目のホルトはピンが出ていてロックを3本タイオフする。
当初は東壁ルンゼの予定だったが時間がなく東嶺にかえた。
1ルンゼのホルト出しの雪は例年より多くT4からT2へトラバースも雪がついてた。
天気がは、オクセオいまっちの内容でした。

(下平)

- 3:40 起床
- 3:50 ① 朝食
- 5:15 ① 出発
- 6:05 ① 徳沢着
- 7:00 ① 長堀沢出合 (前穂付近の山. 沢等を見る.)
- 7:25 ① 発
- 8:00 ① 横尾山荘通過
- 8:15 ① 横尾BC着

感想: 明神. 前穂は... 景晴しく... 加... 山根... 峰... 沢...
 ... 登山... 沢... 山... 沢...

上級生はこのあと雪訓

- 10:00 BC 発 ①
- 10:50 OJLンゼ 途中にて雪訓 (キックステップ グリヘド) ①
- 12:00 雪訓終了 ①
- 12:30 BC 着 ①

感想 ... 明日からいよいよ本番. 気合をいれてがんばるゾ
 ハットリ

- 1 (次)
- Aparty
- 4:10
- 5:30
- 7:30
- 10:45
- 12:00
- 14:00

- L. 内田, 牧野 3・4のJIL → 自出沢
- BC 発
- 徳沢
- 3・4のJIL (8:00 出合)
- 3・4のJIL
- 徳沢, 12:50 本隊と合流
- B.C.

○
○
○
○
○
○
○
○
○
○

冬期登山の 1/2万54 きた... た... た... た... た... た... た... た... た...
 ... 牧野

B, C, パーティー

31 (火)

B.C. - 瀬沢 (雪割) - 5.6の丸 - 大峰ピー7

B.P. - パーティー - リーダー 豊田, 下平, 小林, 瀧山, 服部
兼岩, 植垣, 原, 小野, 遠藤

- 4:15 B.C. を出発
- 4:55 横尾本谷出合
- 5:37 瀬沢到着 (リュックの前)
- 8:10 " 一本 (雪割中)
- 10:00 " 一本 (")
- 11:06 5.6の丸
- 11:19 大峰ピー7
- 13:00 瀬沢 (リュックの前) ↓ パラパラで来た。
- 14:00 B.C. 到着

感想

大のぼり苦しかった。朝は忍者のように瀬沢までいき
丸からはものすごい声の中の雪割。まだ雪割 1日目なんて
信じられない。でも瀬沢と大峰のピー7から見た山は
きれいだった。富士山には感動した。 ~ 遠藤

B, C, パーティー

(火) B.C. - 瀬沢 (雪割) - 5.6の丸 - 大峰 - 同い順路で B.C. まで。

C.P. - パーティー - リーダー 飛田, 中村 (資), 松下, 小久保, 加藤, 武
長谷川, 山田, 河内, 松本

- 4:15 B.C. を出発
- 4:50 瀬沢へ通じる沢の原への出合わりかじで休憩
- 6:00 瀬沢リュック前到着, 休憩, 山の説明, 後, 雪割
- 8:20 休憩, 後, 雪割
- 11:18 5.6の丸に到着, 休憩
- 11:46 前穂大峰到着, 休憩
- 12:28 5.6の丸, 到着
- 13:00 瀬沢リュック前到着, 休憩
- 14:05 B.C. 到着

「思っているよりも心身を痛みに感じる (松本)

感想. きつかった。又、自分の歩く速度が遅いため、他の人に迷惑をかけた。おれは

A・B パーティ

6/1 (水)

B.C. — 涸沢(重訓) — 3・4のコース — 4峰

Bパーティ リーダー 藤田 下平 浦山 小俣 加藤 小野 尾武 遠藤

- ◎ 4:10 B.C. を出発
- ◎ 6:03 涸沢到着
- ◎ 10:20 重訓 おかり、後 3・4のコースへ出発
- ◎ 11:05 3・4のコース到着
- ◎ 11:25 4峰到着
- ◎ 12:58 涸沢到着、後 B.C. へ出発
- ◎ 13:58 B.C. に到着

感想：日かてでいいなと、山のとはとておもしろい。(原)

Aパーティ リーダー 豊田, 中村, 内田, 松下, 牧野, 松本, 長谷川, 山田, 河西, 植垣, 兼岩

- ◎ 4:10 B.C. を出発
- ◎ 6:03 涸沢 到着
- ◎ 10:23 3・4のコース途中の2750m付近
- ◎ 11:00 3・4のコース到着
- ◎ 11:20 4峰到着
- ◎ 12:58 涸沢到着
- ◎ 13:58 B.C. 到着

感想 4峰の岩場は、浮き石が少なくて恐かった。兼岩

6.1 登山隊

↳ FID 服部 小林
屏風岩東麓

- 4:10 BC
- ◎ 5:10 T4 取付
- ◎ 5:40 T4 登山開始 (T4 尾根 50m. 1P)
- ◎ 6:40 T2, 東麓の取付
- ◎ 11:50 4P 目終了, ここで打ち止め
- ◎ 12:10 懸垂開始
3P 下 降 (40m, 30m, 25m)
- ◎ 1:20 T2 取付着
- ◎ 2:00 T4 取付
- ◎ 2:45 BC

リード下田さんのトピクル 服部, 小林で登った。ラスト 2 Pitch
を残して残りの水 残念 無念, この日は屏風のみを食す。

人工の練習をしてない者、は屏風の入門ルートと
言えども登れず訳がない。おまけにアブミから
足を滑らすなど “ちんちんからあかしい”。
11から私が速く登って 1P 1時間もかける3年生
をみてると思わす “目から涙があふ出てしまう。
この涙も屏風のみを食す。

6/2(木) ◎ のため沈殿

6/3 (金) A・B 10-元一

B.C — 涸沢 (雪訓)

A 10-元一 L, 豊田, 下平, 小林, 松下, 小久保, 武, 加藤, 原, 長谷川, 山岡
B 10-元一 リター 中村 (覚) 飛田 浦山 牧野 服部 内田
遠藤 小野 松本 植垣 河西 兼岩

- 6:20 B.C 出発
- 8:15 涸沢 雪訓 雷が鳴った。
- 11:40 B.C 着

感想 寒さがしんどかった。梓川の水が以上に増えていた。(兼岩)

6/4 (土) → 槍の予定 L, 飛田, のり川 全員

- 6:00 B.C 小雨
- 7:10 ー また ⊕
- 8:00 槍沢ロッジ ⊕
- 10:15 ~ 2300m 付近で雪訓 ⊕
- 11:50 赤沢岩小屋 ⊕
- 14:50 B.C ⊕

- 6/5 (日) 全員
- 8:00 T.S 飛 ⊕
- 8:45 新村橋 ⊕
- 幕参 ⊕
- 10:00 徳沢園 ⊕
- 11:10 上高地 ⊕

◎ 係の反省

Essen の反省

MARINA

新人合宿は参加人員が他の合宿に比べてやたらと多い。したがって分量の計算はシビアにする必要がある。めしは少いよりは多い方がよい。腹が減れば人間怒りやすくなるものだ。ただ多すぎるのも困りものである。第一に重いし、高くつく。やはり適量というのがベストであろう。今回の失敗点を改善してみた。次回からの山行に役立ててもらえれば幸いである。

◎ 朝めし。

マカホテ：今日はマッシュポテトを1人ご 50gとしたが60gはあてもよいだろう。またマカホテは水の量が常に話題を呼ぶが、マッシュ1袋(200g)に対して1ℓ~1.5ℓが適当と思われる。パルメザンを詰みすぎたが高い上に少量では効果を期待できず残念である。

◎ 昼めし。

あけせん、乾パンは1人150g程度でよいだろう。ただかりん糖は、1人250gは欲しい。150gだと袋に分けて見ると目に少く感じるからだ。クッキーはミスターイトウのチョコチップが圧倒的に多い。これは1人1箱でよいだろう。

◎ おやつ。

フルーティ：今日は1人1/4袋であったが量が圧倒的に少いとクレームが来た。1人1/2袋は欲しい所である。隠し味に使うスキムミルクも10人で1箱あった方がよい。

おやつ全般についていえる事だがSACで使っている食器は4合(720cc)入るので飲物を作るときは1人300~400ccを目安に分量を測って欲しい。

◎ 晩めし。

米：昨年の新人合宿が1人ご 初日が2合であったとは1.8合であった。そうした所、食いにきとまってしまったために今回は1人1.6合にしたが、全然足りなかったようである。米屋ではkg売りをしていて、合売りはしてはいないため合で指定してミスが生じたのかもしれない。ちなみに7合で1kgである。

野菜：少いという意見があった。本庄ものでは、じゃがいも1/6人、にんじん1/8人、玉ねぎ1/4人である。これにじゃがいも1/4人、にんじん1/4人、玉ねぎ1/4人にしてよいのではないだろうか。

ルー：今日のルーは良く出来た例で、1人3人分である。シチュウも3人分/人であったが薄かった。3.5人分/人にした方がよいだろう。ミソも今回持って来なかったようだが70g/人をよいようだ。

◎ 分量計算をキチンとやって御飯はたのしくおいしく食べましょう。

整備係から (松下)

残置 シュリンガ x 6 ガス 約75cc/x ローソク 5日 x 1本
 ボルト x 2 x 9 92本

会計 (牧野)

△ 23人 x 1000 = 23000
 工賃14人 = 3494
 カ=1人 = 9000

 計 ¥ 242494

田 ES = 141968 (771円/日/人)
 E子 = 9860 (410円/人)
 油 = 10330
 交通往復 = 19650
 = 57500 (3254円/人)

 計 ¥ 239308

残 ¥3186 (サマ天資金にします)

竹前さん、麻田さんからカ=パをいただきました。
どうもありがとうございました。

●個人の反省

1. 2年生は どうぞ 御苦労様 でした。雨に侵されたらぬ、及び
面白くない合宿だったのをいかに、しかしこれだけで合宿だけで
山岳会の山登りを判断しないでほしい。これから様々な
山行が待たせているのだから、山行をこのまじりなまま
には簡単だが、そのまじりまじりに目的・目標を持ってのびん
でほしい。ただ莫然とした山行には進歩はないはずである。
(飛田)

今回の合宿も天候に恵まれずピークに立つことができ
ずに、一年生は残念だ。たと思うがこれにやけに頑張っ
てほしいと思います。

私としては、リーダー部員として隊全体を見ることがまだ
まだできない。たと思います。もと指導力をつける必要
も強く感じました。

一年生は個人山行にどんどん行って山の楽しさを見つ
けて下さい。

下平

反省

今回の合宿はなんとなく無難に終ってしまった感じがするが
2年としての行動としては、自分なりにできただけやった
つもりだが、自分の力にまだ不安があったせいと、一年生に
深く指導する事ができなかった事が心のこりである。
力不足というのは上級生にとり命とりになってしまうことが
分かった。

小久保

なんとか徳本峠は越えられたものの、終始雪状でGUNGUN、TOPを
続けてゆくだけの体力のなさは2年になったのに情けないことである。会の推
進力であるという立場からすれば、とにかく前へでて前進あるのみである(中
核ではないが)夏の俺は違うぜ、あらゆる面においてである。これが目標だ。

(三浦山)

自分の力不足がしみじみとわかった。"2年生は合宿の推進力"と
なるには程遠かった。(牧野)

今回は初めて下級生と一緒に行く山行だった。た
が"自分なりにこうしよう、ああしよう"という考え
えていたのだけれど、実際合宿が始まる
と自分のことで精一杯といふ具合で、一年
生の面倒を見ながら合宿を引っ張って行く
という2年生の仕事に充分にこなすことが
できずに情けない2年生だったと思う。
も、と率先してテキパキ働かなければ、2
年生として失格なので、はたひかて深く考え
させられた合宿であった。これからはそん
な所をしっかりと自覚して、縦走合宿に生か
して行きたいと思っている。それから登攀に一度
も行けなかったことが残念だった。

松下

2年生となり、初めて指導する立場となり、
合宿に参加したわけであるが、教えなければい
けないことをちゃんと教えたであろうか？自分の
体力的、精神的な余裕の母さが1年生への
指導という面では、きりとおられてしまったよう
な気がする。合宿自体、何か緊張感に欠けてい
た(去年の新人合宿にくらべて)ような気がするの
も、精神的な甘えがあるからではあるだろうか。
これからはどんどん山に登って、技術をおかき
色々知識も身につけて、恥しくもない2年生になり
たいものだ。

ハッソ

濁沢への道は本当に長かった。

ちよと気を抜くと前の人との差はすくにながる。

自分が今、この辺りにいるのかも命からず、トレスを
たどりながら、ただ下ばかり易く歩いていた

また、雪訓でピッケルストップのとき耳に竹かぶしたのも
気のゆるんでいた証拠であろう。

あのときは先輩方に本当に御迷惑をおかけしたと反省している。

しかし、北アルプスの山の大きさに圧倒された。

雪岳に登れなかったのは残念だったが、3000mは
あらか2000mも越えたことには、自分にとって4峰、
二峰のピークを踏むことができたこと大きな
喜びだった。

今日の合宿をふりかえると、ただ自分の体力面、
精神面での弱さが露骨に出された

それを克服するために今後の課題として(ようと思) (植垣)

とにかく凄かった。聞いてはいたがやはり凄かった。確かに歩くことや
雪訓にもつらさを感じたが、何といても驚いたのは生活だ。
下界の生活に慣れていたので、合宿はまるで悪夢だった。テントの中は
狭いし、おまけに臭い。雨が降ると入口は水びたし、夜中に顔の上
に水滴がしたたり落ちてくる。シュラフも日に日に悪臭を漂わせる
ようになる。運動靴はぐっしょり。夕飯は手も足も伸ばせない状態で
食べなくてはならぬ。自分のテントに戻るとホッとする間もなく、
"暇な一年水浪んできて下し。" "～ 食器洗ってきて下し" と言われる。
めんどうだと思っても、口が"は"と逆巻をしてしまっている。カッパを
着て川までいく。なんといっても濡るのは野ぐさ。ささが尻に
ピクッとほりつく。初めのころは、テントから、おなり遠いところでやってたが
だんだん近づき、最後はテントの北の広場で出すようになった。
沈殿日には、昼めしのカシパンを食っていて虫歯自だた歯がくだけ
散ってしまった。また、口も何となく、ジャージがしめっていたし、体は、あせも
ができてかゆいし、臭くなってくる。

濁沢では滑落したし、ベースに戻れば梓川に落ちるし、とにかく悪いこと
づくめだった。

下山のみを楽しみにしていたのに、いざ下山すると虚しさが残る。

こうして、一歩一歩山岳会員になるのだろう。

＝ 遠藤 ＝

反省点、 体力が不足していることは言うまでもないが、体力を限界まで出し切る精神力が不足している事は大変残念だと思った。

ベースキャンプに戻ると安心してしまっ、その後すべき事を忘れてしまった。特にエッセン当番の準備時間が悪かった。(小野)

今回の山行では精神面での弱さを痛感した。恥しいことであるが、自分に甘えて妥協してしまつたところがあった。

技術面では、グリセートや、横スベリなどは最終日には、でも初日から全く進歩が無く、これから練習を積みかさねる必要があるのだ。積極的に個人山行に参加していきたいと思う。(河西)

第1に反省すべき点は、合宿前に十分なトレーニングをつんでいなかったということです。そのため、徳本峠や涸沢での雪訓のときに、体力の無さを痛感しました。毎日のトレーニングで体力をつけて、次の山行に望みたいと思います。

合宿中、1年生だからといって、精神的に先輩に頼りすぎているところがあり、しかりとした行動がとれないときがありました。例えば、尻セードのとき、おもしろくて、スピードを出しすぎ、かくりかえ、てしまったのは、とても危険な行為でした。山にいる間は、緊張感を常に持続させなければならず、そうしなければ、自分が危険なめにあうだけだと思いました。

また、エッセンのときや、集合のとき、テキパキと行動できずに先輩に恐られたが、1つ先を読んで無駄なく行動できるようにしたいと思います。綿軍手を1枚しか持、ていかなかったところ、鍋を持つときとても熱かったため、次回、2枚持、ていきます。

良かったことは、合宿中、体調を崩さずに、常に良い状態で山に望めたことです。これからは、自分の健康管理は、しっかりしたいと思います。(兼岩)

初日、徳本峠を越へキャンプ地に着いたとき、残りの月日がとてつもなく長く感じられた。

その長かった新人合宿も終わり、今になって振り返ってみると、いろいろな面で不十分だったところがある。とにかく考えが甘かったように思う。

まず体力のなさを強く感じた。最低限、前の人について歩けなければ何にもならない。今回の山行ではそれすらろくに出来なかった。

雪上訓練ではセックルストップは止まらない、グッドセードも横すべりもうまくゆかず、全くだめであった。その他エッセン当番のときに軍手やライターがすぐ出なかったことや、全体的に動作が緩慢だったことなど、反省点はいくつもある。

今回の合宿は初めてのことでばかりだったので、それについてゆくのにもやっていた。朝も便所に行く時間もなほぼ忙しく、とにかく時間に追いまわされるようだった。

今回は反省ばかり思いつくが、次の山行では、今回気づいたことを生かし、人並みの行動は出来るようにしたいと思う。

またも、トレーニングを積んで、山の美しい風景を楽しみ、余裕を持ちたいと思う。(加藤)

初日の荷物、重さは、思っていた程とは異なり、むしろ重かったが、徳本峠直下迄、ゆくりしたスピードで歩いてもらったおかげかむしろ軽かった。その後、涸沢往復は、けろりキツイもので、幕営地に着くと疲れてしまい、十人並み、いやいややっていた様な状態でした。気の付く範囲でエッセンの手伝い等、していたつもりですが、他人と比べてみると、少々仕事量が多かった様なにも思えました。

雪上訓練などは何度やらせようか。

先輩に「帰れ」と言われた時は、本当に帰りたく
な、たものです。「寝る前に 明日は土砂降りど
おります様に」とお願いすると、本当にどうも、と沈
殿出来るぞ」と聞いて、その夜、どうもお願いしたら
次の朝は本当に土砂降りでしたが、それはそわかから
ず、雪上訓練に行、たのには閉口しました。

高校時代を思い出して、またあの辛い生活が
戻、てきたのかと思、いながらの1日間でした。暫
く忘れ、ていた生活でしたが、下界の生活がどん
なものが、改め、て思、い知らせ、てくれるのが山の
生活だと思、います。たまには、こういう経験も
良いもの、かもし、れません。最後に、危険をおか
してま、ごも、山に連れ、てい、て下、された先輩方に
感謝、します。

武 裕 一 郎

今日の新人合宿におい、てま、ご初、めに反省点、からあ
げ、てい、ました。

1. 体力が、ないた、めに100mのペースを、お、と、し、て
し、よ、つ、たり、雪、上、の、際、トップに、立、て、ま、ペース
を、あ、げ、ら、れ、た、け、だ、た。
2. キック、ス、ラ、ッ、フ、の、際、体、が、硬、い、の、と、足、が、上
が、ら、な、か、た、多、少、足、が、上、が、た、と、し、て、も
バ、ラ、ン、ス、を、く、ず、し、や、す、か、た、た。
3. グリ、エ、ー、ド、の、感、覚、が、な、か、な、か、つ、か、れ、な、か、結
局、の、と、こ、ろ、ま、ご、で、き、な、か、た、た。

ほか、た、も、数、多、く、の、反、省、点、が、あ、る、が、お、ま、ご、初、め
は、二、の、三、点、と、あ、る、1、に、つ、い、て、は、予、想、が、き、た、こ、と、と
あ、り、合、宿、前、の、ト、レ、ニ、ン、グ、を、あ、ら、ま、ご、し、な、か、た、た。
1、に、つ、い、て、は、最、後、に、多、少、と、い、え、ど、も、感、覚、を、つ、か

おたのしみであった。今後はこれらの反省点を
たぬから、これから山行にいかしていきたい。

感想としては、朝 行動を初めてしばらくすると
腹が痛くなったところが数回あったが、これは特
にマツカ、また、合宿前半にくらゐ後半には
多少なりとも体力的に調子が上がってきたのは
よかった。全体的には、おたのしみであった合
宿も合宿らしくほとんどマツカと思えず、思いが深
いものに仕上がった。

長谷川 隆真

新人合宿は、初めての本格的な山行とい
うこともあり、全く知らないことばかりで、覚えなけれ
ばならないことばかりだった。反省としては、行動の
鈍さが目立った。これから何度も山で生活するため
には、必ず直さなければならぬことだと思う。
もう一つは、合宿前にほとんどトレーニングをしな
かったことから、体力がついていかなかった。そして
今まで、雪の上もろくに歩いたことのなかった自分が
いきなり雪訓練をやって、かなりとまどった面があった。
身につけた技術も少なかった。これは、これから克服
していこうと思う。

エッセイの面での自分としての反省は、1日目と2日
目の夜、しっかり食べておかなかつたため、次の日に
バテてしまったことである。

感想としては、奥穂、穂ヶ岳には登れなかった
ものの、前穂の四峰、六峰のピークに立ったときの
嬉しさは、それまでの苦勞を忘れさせてしま
うほどだった。それと同時に、雪山のこわさも知った。
新人合宿は、まだ最初の一步なので、これから
トレーニングも積んで、次の山行に備え、挑戦して
いこうと思う。

(原)

①反省。 自分にとって、真先に改善すべきところは、体力不足だと思われる。出来るだけ自主トレを行い、パーティーの速度についていく程度には、自分の体力増強を計りたい。また、登山靴を初めてはくというのに、履き馴染みが全く不十分だった。結果として、四箇所靴擦れをつくってしまい、いまだに治りきっていない。それから、綿軍手を一組しか持っていかなかったため、食当の際に、不都合があった事、天気図を極く練習をしていなかったため、かなり時間がかかってしまった事、時計を持っていなかったため、記録をとるのに不便だったこと、夏用のシャツでは、少し寒く感じたのも、反省すべき点である。

②感想。 辛くて長い日々だった、荷物を荷負している間は、下界に降りたらサッサと退会しようと思っていて、テントに入ったら、もう少し続けてみようと考えなおす。というのが一日のパターンだった。この合宿で自分の体力の無さを改めて自覚したのは勿論であるが、それ以上に、「山は怖い」というのが一番深い印象である。六峰や四山峰のピークで、「ここで足を滑べたら死ぬ」という恐怖感よりも、朝歩いて来た道が、帰りには川になっていた時に感じた恐怖の方が強い。それは、単に、状況が変わり易いということに対するものではなく、朝には何ら危険を感じることなく平気で登って来たこと、恐ろしさを感じることをさえてきなかった事に対する、後から来る恐怖である。下界では、この極の心労がなく、安心した時を過ごせるということだけで、幸せを感じている。(松本)

反省点

今回の反省点としては、まず事前の健康管理から上げなければいけない。山行一週間前に崩した体言周が戻らなため、寝不足、減量となり、山靴の足慣らしが不十分になり、本番とあり、このことは次に上げる体力不足の一因となり、いたがもしない。

やはり、とも大きなこととして、体力不足が上げられる。この結果として

・行動中、前の人についていくのが精一杯であった。

- ・ 随時、行動の機敏又まに欠けた。
- ・ テント場での仕事に無気力であった。
- ・ 特に雨の日など、精神的な弱さが見られた。
ことなどが上げられる。

又雪訓においては、その本当の意味というものの自覚が足り
なかった。

以上のことを通して言えることは、「山へ行、反」というよりも「山
へ連れてい、てもら、反」という感が強いことだ。

今後の課題として

- ・ 山に慣れ親しむ。
- ・ 体力をつける。

というおぼえをしてみたい。

感想

合宿が終わ、ての感想は、とにかくよかったこと、生活面
で喜びしかたこと、そしてそのお存中에서도、雪のある山がすば
らしいと思、たこと、先輩方から学ぶことが多かったこと等が
上げられ、他にも最終日の行程などは今だ記憶に新
しい。

(山田)

5/20 ~ 5/22 岳沢ゴブ尾根
L ウ4ダ マツシク

5/20	上高地	◎
5/21	5:45 出発	●
	8:05 岳沢キャンプ	〃
	9:30 天狗沢で雪訓	〃
	13:00 終了	〃
	13:20 T.S	〃
5/22	6:00 出発	〃
	8:30 上高地	〃

ずと雨が降、っていたが、
ゴブ尾根登攀はできた
か、た。雪はけ、こうあ、た
か、てブ、リが、び、び、か、た。
松下

作文

新人合宿日記

山田

5/29. 医短での目覚めはまあまあで朝食も割合スムーズにのどを通る。でも依然のど痛み、咳は止まらない。夕クシでダムまで入り、いよいよ第一歩を踏み出す。ペースが速い。バテはしないが汗の出がすごい。二俣を過ぎてもペースは落ちず又足も痛い。休けいのたびに多量の水を飲む。天気は晴れた曇り、たいてい徳本最後の登りの前には⊙と共に⊙も混じる始末。ほとんどバテ気味で徳本へ。峠では雲が低く、視界の高さが見えず、おまけに⊙が解る。下りもまづいがか何とか終り幕會だ。期待したフルチェには裏切られ、追いつくをかけるかどう存全メン。2回戦はもう地獄だ。5/30. 朝は朝でマホテのどを通らず肩もはれたまま。しかしB・Cは7:00からの午後は、信じられない程の気持ち良さ。もう何も反らない。只の人びりだった。それ程にいい気分だ。5/31. 念願の涸沢と目指すか！ピンチでバテる。ヒュッテまでの登りは、頭と体の回路が叩かれたようにふらふらと。咳が止まらない。あー、とうとう涸沢だ。涸沢はついた。5.6のミルから6.4峰へ。高度感がすごい。7. 3.4のミルまでの登りも、こうまづい。登ると気持ちがいい。でも6.4峰へ続く岩稜は巨大だ。こわい。絶対にはげ木なし。そういう気持ちと起こさざるに体の不足と天災だ。この日とうとうBCでは本格的な雨と存しよう。米と米有人かやり反らない。ぬれ反らない。こんなことではだめだと思ってるから、1ポリテントから出た反らない。草でも出ては入るもう“存全メン”だ。6/2. 朝から雨は止まず、待機のコル。9:00 PMは天気図をとめるが、大雨のパターンだ。これは占めた。と思い、喜んで9:00天へ見せに行く。10:00に沈殿発表。もう寝て食うの存。でもヒヤだ。6/3. 雨続きで川は増水、谷も沈殿かと思いがけ、いや祈る方にじと寝袋はくるま、こるが、ついに準備のコル。内心半絶望的。今日はただひたすら行くのみ。雨具を100%の歩行で全身グッショリとなり、ヒュッテで後流を得た。風雨強い。とうとう雪言った。自分を捨て、ただ一個の動物と存。と言われるまに早く、早く終われ、早く帰りたい。ヒュッテでフルフルを飲み、ケレたけまを返す。帰りの下りはすごい。雪の上を青い川が流れる。屏風は滝と存。滝は空を飛ぶ。横尾谷のスキーソングはどんどん壊れていく、ラッキーと思、たエッセン天は水びらいた。

1/4. 例のこぼ雨。ひとまず待機不效。もうめんどくまくて橋を人がどう
でも……。でも出発のルール。今日はひらき直りの技も通用ほうはない。
-1俣で-服。巻き道は本当につかい。橋決は長すぎる。10:15
時間切水宣言。と同時に心の雲は消えと同時に東の空も晴
れてくる。雪訓はフリーズードにけと息を吐いてはいるものの早く終、で飲
い。今日の下りに限、ての自由降下となり、楽な足取りを楽は。
橋決小屋跡からは各自小葉をとりながら、6月の高い目線でのし
の中を下、て行く。何とすばらしい合宿であつたことであつた。いやま
、下く。夜にはこの小葉で天ぷらを食べ、77伊-スト-ムも無事終
え後は寝たがけた。谷上高地までの道もまだ長いと感ずる。
徳沢以降の自由行動は、悪い奴には早くに見切りをつけ、マイ
ペースで行く。余や何人かの先輩は抜かれるかもう追いつく気力
はない。前穂、明神を過ぎると楽決が見えてくればもう上高地は
近い。再び思考の回路を立ち上げ、一路バスターミナルへ向かう。
後は帰路とる。

沈殿を考える

兼岩 勲

「今日は、沈殿!!」と言われて、思わず笑みがある。れ
でたのは、僕だけではなかつたろう。うれしいものは、うれしい
のだ。人間は、楽なほう、楽なほうへ流れていくというが、
どこまでも流れていくわけじゃないと思う。つまり、毎日が
『沈殿』だ、たら、今度は、皆が悲しくなるのではないか?
仮にも、山に登りにきたのだから。そこで、どうか山の神様
仏様、上手に、沈殿を作、てくださいな。お礼に、
「ポックリ」を差し上げましょう。

加藤

高校一年生のとき、高原スクールなるものがあり、
上高地を訪れたことがあった。五月の下旬だった
と思う。それから三年たち、今また同じ道を歩いて
いる。しかし、軽かったリュックサックは重いキスリング
に変わり、真新しいジャージは薄汚れたジャージ
に変わり、ジョギングシューズは登山靴に変わって
いる。そして美しい景色を楽しむ余裕はなく、きれい
な服を着た観光客がまぶしく見える。
三年前の自分から今の姿を想像できただろうか。
この調子で行くと、あと三年たつと、自分はもうなっ
ているのだろうか。

雲取山 5/19 ~ 5/21 ハトリ

5/19 奥多摩駅 13:00 ① 七ツ石山 18:00 ② 山頂でツェルトで寝る

5/20 七ツ石山 7:00 ③ 鷹ノ巣山 7:50 ④

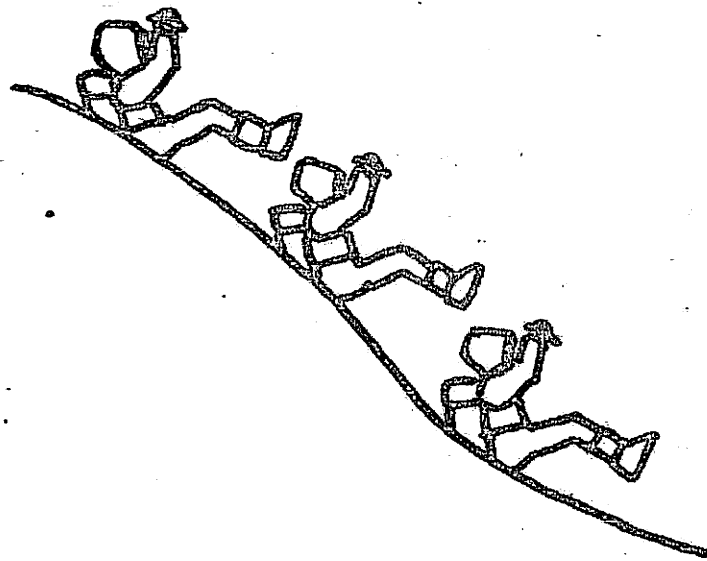
雲取山 11:00 ⑤

飛竜にむかう途中でじゃぶつにあい引き返す

雲取山 12:30 ⑥ 鷹ノ巣ひまわり小屋 15:20 ⑦

5/21 ひまわり小屋 9:30 ⑧ 奥多摩駅 11:20 ⑨

雨ばかりでつまらなかった。



Printed in Matsumoto. 1988. 6

S.A.C.